

作業を一日体験する 11月20日(日)

土をいじり、汗をかく

本当に活動で笑顔になるのか
実際に体験するとその魅力がじかに伝わってきた
広報担当が作業を体験した

前日の大雨も上がり、雲の間から光が差し込んでいる。公園内には散歩する人や花を観察している人がいる。

9時を過ぎると会員が集まりだした。休憩所の外で、山本会長が大澤達夫さんに「水神公園どんどんは、小川のところにロープが張ってあるでしょ。子どもたちが小川に近づけないって言うていたよ。このままじゃ寄り付かなくなっちゃうんじゃないかな。ホテルの赤ちゃんがいるから入らないでねって看板を書けば、子どもは自然と気を付けるよ」と話していた。発想を変えるだけで、誰も嫌な思いをせずに注意喚起できる。相手の立場に立って考え、分かりやすいメッセージを投げ掛ける大切さを教わった。

この日の主な作業は、子どもが登って楽しむことができる「カメの形をした丘」を完成させること。普段使うことのないスコップを片手に、作業現場へ向かう。10時前、碎石が到着した。みんなスコップやジョレンを持って集まる。ある人は、地面にカメの足の形を書いていく。ある人は、地面に広げられた碎石をスコップでならしていく。私は、トラックから下ろした碎石を一輪車で足の部分へ入

れる作業に当たった。普段やることのない作業に、腕も足もパンパンに張った。しかし、どンドン出来上がっていくカメの丘を見ると、楽しくてたまらない。会員の間では「来てくれた子どもたちは喜ぶだろうね。どんな顔するかな」と期待に胸を膨らませる声飛び交っていた。約2時間後、カメの丘が完成。「やった、出来た。早く子どもたちが遊びに来ないかな」。達成感と期待感でいっぱいになった。

午後は、花だんの草取り。作業中はいろいろな話が飛び交った。「リュウゼツランの花茎の部分を発酵させるとテキーラができるんだよ」と山本作一さん。また新たな発見があった。

空がオレンジ色に染まってきた午後4時ころ、作業は終了。普段の生活で生かせることや新たな学び、楽しさや充実感を得られた一日だった。車の窓ガラスには笑顔の自分が映っていた。



▲全員でカメの丘を完成させた

楽しさや充実感を得られた一日
気が付いたら、笑顔になっていた

